

私の中のダイキン工業

— 外国人と日本人は種族が異なる —
ちがうおりの中にある動物園

記憶の中にあるダイキンはいつも挑戦者の印象です。

「ジャワ原人」という名は聞いて知っていたし、現代人の先祖と高校で学習した世界史の中で登場していたが、それを紹介するジョグジャカルタの博物館を訪れる機会があった。

陳列物はガラス張りのショーケースの中に納められ、説明されていたが、ふと気が付くとその温度、湿度をコントロールする空調用の小さな機械にダイキンと記されていた。遠く離れたインドネシアの僻地で、日本に出会うとは、全く想像を超えた感激であった。これは1992年7月の出来事であったが丁度ニューヨークではダイキンVRVのコンサル業務の最初のステージの佳境に入るところであった。それより十数年前ロンドン、コベントガーデン横のロイヤルオペラはハウスの楽屋入口に、ややくすんだ感じの小さな空調屋外機が置かれ、そこにはダイキンの印がつけられた。当時の外国旅行で、日本を示す何かに出会った時、それは驚きであるとともに、ある種の誇りと嬉しさが湧いてきたのは自然であった。1972年ASHRAEのGuide Bookに天狗の面で1ページ全面で載せてあったのを見つけた時は、その大胆な挑戦状に感動していた。

1968年から、2年間ニューヨークの事務所で、世界各国から採用された、350人の社員中、未熟な空調技術の国からの、唯一人の日本人として、最も先進の空調設計に従事し、実践を通じて、知識を習得していた時から数えて、その2年あとには、世界の空調技術者のバイブルと云えるこのガイドブックに大胆にも、胸を張って登場する日本企業のこの心意気は50年後の現在のダイキン工業の繁栄に繋がって当然と納得できる。

「挑戦」という言葉の意味は深い。宇宙開発の幾つかは挑戦故に、全て失うという壊滅結果となっていたのを知っているが、ダイキンという会社がそのような挑戦を公開し、失意を乗り越えて成長し得た、忍耐力と創造への限らない情熱の会社が ダイキン工業であると理解して、我々の力の源となっている。

石黒隆敏



ASHRAE GUIDE AND DATA BOOK 1972



ジョグジャカルタ博物館